



3

岸和田のまちで考える

1. 景観区別デザインイメージ
2. 環境分析

岸和田の地域の個性をいかした景観形成を実現するために

1 景観区別デザインイメージ

< 全体の目標 >
岸和田の都市景観形成に寄与する公共施設づくり

< 施設の目標 >
誰もが利用しやすく、ひとやまちにやさしい
まちに調和し、住民生活にとけこむ
まちなみにバランスのとれた秩序を形成する

< 要素の目標 >
いきいきとした魅力あふれる公共空間をつくる
地域らしさの表現に寄与する
公共空間に秩序と変化を演出する

■まち（景観区）で景観づくりの方針を考える

ガイドラインⅠでは同じ景観特性をもつ地域（景観区）ごとに基本方針を定めています。したがって、公共施設もこの基本方針に沿って整備していく必要があります。

ここでは各施設、各要素について景観区ごとに目指すべきイメージをまとめました。これを参考に、個別の事業ごとに検討、創意工夫をし、各自できめの細かい対応をしてください。

基準となるゾーニング



ガイドラインⅠより

		市域全体	臨海部 臨海景観区
テーマ		恵まれた自然と文化環境を活かした質の高い「快適環境都市」 ●自然、歴史、文化を活かした岸和田らしいまちづくり ●海から山までの調和のとれた景観形成を図る	海辺に身近に接する親水空間の創出 ●港の水際線を活かし、海辺に親しめる空間を創る ●水際の工業地を緑で演出する ●海への眺望を大切にする
基本方針			
施設	道路	■道路の機能と街路空間が調和するまちづくり ■歩行者にとって快適な街路空間づくり ■街路空間でのルール確立 ■だんじりまつりの舞台づくり	◇街路樹を育て、潤いのある街路空間をつくる ◇顔となる道をつくる
	土木構築物	■まちに融合する ■わかりやすいまちづくりに寄与する	◇自然な形状をつくる ◇生物が棲める場をつくる
	水辺空間	■自然に親しむ空間づくり ■人々の賑わいを演出する ■まちにとけこむ風景づくり	◇海岸線の記憶 ◇親水空間 ◇市民が楽しめる場とする ◇アクティビティを呼び込むしかけ
	公園緑地	■まちにとけこむ公園づくり ■まちに良質な緑と自然に親しむ空間を提供する ■地域の特徴を出す ■住民共有の財産としての公園を地域で育てる	◇海辺にふさわしい市民の憩いの場となる ◇白砂青松の記憶
	公共建築物	■まちに調和する公共建築物づくり ■有効に利用される、質の高い公共建築物づくり ■住民生活にとけこんだ公共建築物づくり	◇海に親しめて、楽しめる（眺望、親水、レクリエーション） ◇修景する（緑の供給）
	色彩	■まわりから突出した色彩の使用を避ける ■周囲の景観資源を尊重する色彩を使用する ■「にぎわい」「たのしさ」「らしさ」を表現する	◇明るく ◇イメージの向上
要素	緑	■公共施設の敷地内で緑を供給する ■地域イメージを演出する ■人が楽しめる緑空間をつくる	◇海辺のイメージ、新たな景観の創出 ・緑被率1~3%（現況）
	サイン	■「わかりやすいまちづくり」に寄与する ■景観阻害要素とならない、適切な整備をする ■まちを表現し、紹介する	◇まちの記憶と新たな顔の創出 ◇まちを情報発信する
	アート	■親しみのある、愛着の持てるアートを設置する ■まちを彩る ■住民の心を表現する	◇新しい顔づくり ◇都市的演出

平地部		丘陵部		山地部
旧市街・歴史景観区	沿道型市街地景観区	新市街地住宅景観区	里の景観区	自然緑地景観区
歴史と新しさが織りなす魅力空間の創出 ●岸和田のシンボルとして魅力空間を創り出す ●歴史的空間の保全、整備を進め、まちづくりに活かす ●中心市街地らしい景観の演出	調和のとれた住・工複合のまちづくり ●都市軸にふさわしい沿道景観を創り出す ●周辺の公園を活かした景観を演出する	生活文化拠点、良好な住環境の創出 ●良好な住宅地を形成する ●身近に歴史とふれあえるまちなみを創る ●残された自然環境を活かす	残された自然と農村集落景観の保全 ●史跡や旧集落、街道などの歴史的景観を活かしたまちを創る ●地形・植生の保全、回復 ●緑を残し、増やす	自然環境の保全と、自然に親しむ機会の増大 ●現況の地形・植生を保存する ●自然に親しむレクリエーションの拠点と森林公園づくり ●標高 150m 以上は保全する
◇歴史的たたずまい、既存の街路空間をいかす ◇歩行者にやさしい公共空間、交流の場 ◇街角をつくる	◇R26ーシンボル軸としてふさわしい街路空間づくり ◇住宅街ー歩行者にやさしい公共空間、交流の場となる	◇地形を壊さない ◇既存の集落や街路の形をいかす ◇住宅街ー歩行者にやさしい公共空間、交流の場となる	◇地形を壊さない、いかす	◇地形を壊さない ◇自然の風景を保全する
◇ヒューマンスケール ◇歴史的たたずまい ◇歴史的風景になじむ、控え目なデザイン	◇ヒューマンスケールに配慮 ◇市民生活、コミュニティに配慮する、分断しない、つなげる	◇地形を壊さない ◇自然の風景にとけこむ	◇地形を保全 ◇自然に調和する ◇遠景に配慮	◇地形の保全 ◇自然の風景に調和、なじむ、控え目 ◇遠景に配慮
◇他の施設、アクティビティとの関連性、拠点づくり ◇小河川、水路などネットワーク化をはかる ◇日常の親水空間、ピオトープとなる	◇日常の親水空間、ピオトープ ◇他の施設、アクティビティとの関連性、ネットワーク化をはかる	◇自然の地形、景観をいかす ◇ため池と疎水をいかす	◇市民のレクリエーション場 ◇自然をいかし、取り込む	◇自然に親しむ場 ◇生物に触れる場
◇歴史性の尊重 ◇市民の日常の憩いの場、身近な交流の場とする ◇他の公共施設とつなげる、ネットワーク	◇ため池をいかす ◇市民の日常の憩いの場、身近な交流の場とする ◇他の公共施設とつなげる、ネットワーク	◇ため池をいかす ◇地形をいかす ◇丘陵部の緑を保全する ◇自然の緑をいかす	◇農の風景 ◇地形をいかす ◇ため池をいかす ◇自然を楽しむ ◇眺望を考慮する	◇市民のレクリエーションの場、自然に親しみ、楽しめる場の提供 ◇国定公園およびその周辺にふさわしいデザイン ◇自然を尊重する
◇歴史性の尊重、既存の街路空間を活かす ◇中央ゾーンとしての顔づくり ◇公共空間と緑を提供する、やさしい施設	◇車窓からの風景を意識する、シークエンス、ビスタ ◇新しい顔づくり ◇ため池をいかす	◇集落の景観を尊重 ◇新しい都市の創造、核づくり ◇地形を壊さない ◇ため池をいかす ◇自然との調和、控え目	◇スカイライン、、山並み、地形との調和 ◇神於山への眺望、周辺からの遠景に配慮 ◇集落との調和 ◇ため池をいかす	◇自然を阻害しない、控え目なデザイン ◇自然との調和 ◇市民が自然と触れ合う場をつくる
◇歴史性になじむ色 ◇自然素材、歴史的な素材をできるだけ使用する	◇都市性の表現 ◇新しい顔づくり	◇集落と新しいまちとの調和 ◇自然に生える色 ◇新しい風景をつくる	◇緑に調和する ◇自然素材 ◇自然の風景になじみ、控え目な色	◇主役にならない色 ◇自然素材 ◇自然の風景になじむ色、素材
◇歴史的な緑を守る、育てる ◇シンボリックな緑 ◇敷地内に確保 ・緑被率 2~8% (現況)	◇R26の植栽帯の強化 ◇幹線道路の演出 ◇敷地内に確保 ◇春木川を重視する ・緑被率 3~12% (現況)	◇風致地区の雰囲気を守る ◇丘陵部の緑の保全 ◇借景としていかす ◇みかん畑 ・緑被率 3~28% (現況)	◇神於山、田園、丘陵を借景としていかす ◇桃林、みかん畑、棕の木 ◇社叢の保護 ・緑被率 33~55% (現況)	◇葛城山系を借景としていかす、楽しむ ◇ぶな林の保護 ◇紅葉の育成 ・緑被率 80%以上 (現況)
◇歴史性に配慮 ◇地域を紹介する ◇情報発信の拠点となる ◇歴史の中心	◇都市性の表現 ◇わかりやすさ ◇そろえる	◇自然をいかす ◇そろえる	◇農村の風景にとけこむデザイン ◇自然と歴史を紹介する	◇自然の風景にとけこむデザイン ◇自然のデザイン ◇自然を安全に楽しめるための情報発信
◇歴史的雰囲気になじむようなもの ◇街角の演出	◇まちの核となる ◇空間の印象、まちの顔づくり ◇都市性の演出	◇まちの演出 ◇自然のアート性を尊重する	◇農の風景にとけこむ ◇自然のアート性を尊重する	◇自然の風景にとけこむ ◇自然のアート性を尊重する

2 環境分析

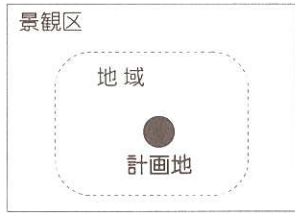
実際の施設計画にあたっては、あらかじめ「ガイドラインⅠ」の景観特性の分析を参考に、計画地とともに周辺地域の景観特性を読み取ります。十分な検討を行ない、土地の文脈、特性を明らかにします。

これらの検討をふまえて、地域の景観構造を読み取り、計画する施設の景観形成上の役割を見極めます。そのうえで、個別のデザインを組み立て、よりよい景観形成につとめます。

計画する場所によって検討項目は様々であり、解決手法やしつらはひとそれぞれです。

以下の手順を参考に創意工夫して環境分析をおこなってください。

■場所の現況調査

地域の現況	
<p>< 計画地の位置 > ○属する景観区、まとまりをもつ地域の抽出</p> <p>< 景観区別方針 > ○ガイドラインⅠより、テーマ、基本方針、シンボルなどの確認</p> <p>< 周辺施設の確認 > ○計画地周辺の公共施設、主要施設、公園、樹木、道路などの確認</p> <p>< 計画地の形状 > ○敷地、隣接する施設との関係などの確認</p>	

■環境分析

自然特性	歴史特性
<p>< 地形 > ○地形、地質、土壌、風向き、日照、眺望など</p> <p>< 水系 > ○河川、ため池、水路など</p> <p>< 樹木 > ○樹種、植物、生物など</p> <p>< 構成 > ○ネットワーク、回遊性、人との関係</p>	<p>< 地域の歴史 > ○地区の時代変遷、街道、古径など</p> <p>< 計画地の履歴 > ○以前はどんな状態、どんな利用であったか</p> <p>< まちの記憶 > ○記憶をつたえるもの、とどめるもの (巨木、碑、路地空間など)</p>
生活特性	空間特性
<p>< 建物用途 > ○住宅、商業、工業など</p> <p>< アクティビティ > ○生活、賑わいの中心、憩いの場、動線など</p> <p>< 住民の心の風景 > ○風物百選、昔話、祭り、イベントなど ○だんじり祭り(曳行ルート、だんじり小屋)</p>	<p>< 都市構造 > ○都市軸：河川、道路、鉄道など ○都市核：駅、主要施設、商業施設など</p> <p>< 交通 > ○車両交通：広域、地域 ○歩行者：回遊性、アクティビティ</p> <p>< 土地利用 > ○建物の密度、高さ ○オープンスペースの分布</p>

■めざすべき景観の読み取り

現状の景観構造の考察

< 継承すべき要素・尊重すべき要素 >

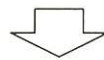
例えば、

- 自然、緑、水、地形
- 憩い、思い出の場、生活の拠点
- 先導施設の意匠、色、モチーフなど

< 改善すべき要素 >

例えば、

- 敷地や回遊性、アクティビティの分断
 - 不十分な公共空間、快適性の欠如など
 - 計画地と地域、他の公共施設との関連性のなさ
 - 自然に親しめるしかけの欠如
- など



景観デザインの組み立て

< 計画地の都市景観形成上の役割 >

- 計画地が地域の景観形成にどう寄与できるか判断する
- 控え目にするのか、目立たせるのか
- 地域全体が生き生きとするようにソフト面、ハード面からも施設を計画する
- 他の施設も生きてくる、住民の生活に貢献できるような役割を担わせる

< しくみの検討 >

- 隣接する公共施設とは将来的な複合化の検討を行なう
 - 施設利用の相互間のネットワーク化をはかる
 - 住民参加、コンペ、プロポーザルなど様々な方法でアイデアを募る
- など

< 施設構成の検討 >

- 既存の施設の機能を有効に活用し、かつ、不足している機能を補完するような施設構成を考える
- 低層部～外構～道路までの構成は地域との関係が大きいので特に注意する

< デザインのポイント >

- 視線・見え方に配慮すべきポイント、重要な視点場（シーン、シークエンス、ビスタ、近景・中景・遠景）
 - なじませるポイント、表現するポイント
 - 読み取った意匠、色、モチーフなど
 - 水と緑の強化、自然に親しむしかけづくり
 - アクティビティへの配慮
 - やさしさ、市民生活へ寄与する（歩行者空間の確保、生活者の空間確保など）
 - 安全で誰もが利用しやすい工夫
 - 公共施設間の連続性、融合化のしつらえ
 - 将来的な複合化への布石
- など

